

「伝統と文化」を大切にし、地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成（1年次）

—京都に根ざす「伝統と文化」を体感し、関心を深める学習プログラムの提示—

今井 大介（京都市総合教育センター研究課 研究員）

本市「学校教育の重点」においては「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」という子ども像が示されており、「伝統と文化」を重視した教育活動を推進することが求められている。そこで、本研究では、「京都に根ざす『伝統と文化』を体感し、関心を深めること」に焦点を当て、第3学年の国語科及び道徳、第6学年の社会科及び道徳の実践授業を通して、「伝統と文化」を大切にせる教育活動の充実を図った。その結果、京都三大祭や京都に縁のある短歌や俳句、「古典の日記念 京都市平安京創生館」といった地域素材を教育課程に効果的に位置付けることで、過去と現在のつながりを感じたり、地域のよさに気付いたりするなど、地域で学ぶ強みを生かそうとする子どもたちの姿が見られた。

第1章 「伝統と文化」を大切にせる教育とは

第1節 いま、なぜ「伝統と文化」を大切にせる教育が求められるのか

いま、日本社会・日本人の意識は転換期にある。グローバル化、日常生活のニーズの変化、IT技術の発達などは、アイデアや知識、人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。

このことに関わって、中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興計画の在り方について」では、次のように提言されている。

日本の伝統・文化の尊重、郷土や国を愛する心と国際社会の一員としての意識の涵養

これは、教育活動を通して、日本人としてのアイデンティティ（「伝統と文化」を尊重し、郷土や我が国を愛する心）と、国際性（国際社会の一員としての意識）をもった日本人の育成を目指すことを示しているのである。つまり、これからの時代には、国際社会の一員として生きる日本人としての自覚とともに、郷土や我が国の「伝統と文化」を大切にせる心をもつことがますます重要になる。

第2節 「伝統と文化」に関する教育活動の現状

現行の小学校学習指導要領の全面実施と重なる平成22・23年度に「地域等の課題に応じた教育課程研究事業『伝統文化教育実践研究』」という名で22校の小学校が国立教育政策研究所の指定を受けて研究を行っている。研究指定校においては、全22校中21校が「伝統と文化」に関する教育活動を総合的な学習の時間に位置付けて実践している。総合的な学習の時間に偏らず、子どもに付けたい力や態度を明確にした上で、各教科等に適切に位置付けて実践を進めることが大切である。

第2章 「伝統と文化」を大切にせる授業づくり

第1節 京都に根ざす「伝統と文化」を体感し、関心を深める授業づくりに向けて

京都に根ざす「伝統と文化」を体感することによって、次のような効果が期待できると考える。

- 京都の「伝統と文化」の歴史的な意味や内容、それに携わってきた人のおもいや願いなどを理解できる。
- 京都や地域を好きになったり、誇りをもったりできる。

そこで、「京都に根ざす『伝統と文化』を体感することで付けたい力や態度」を図1のように設定した。

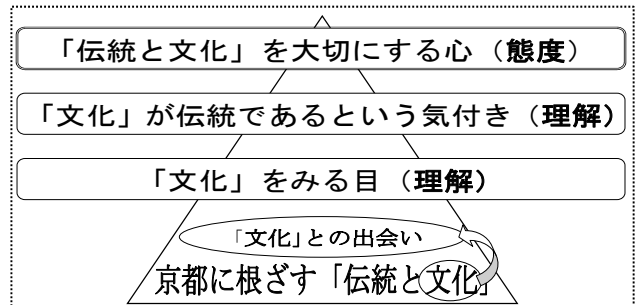


図1 京都に根ざす「伝統と文化」を体感することで付けたい力や態度

「京都に根ざす『伝統と文化』」についての子どもの思考については、まず子どもが文化に出会うこと、次に子どもが出会った文化について理解すること、更に、単元や題材における学びを通して、出会った文化に対する理解を積み重ねていくことで学びが深まっていくと考える。

第2節 本市指導計画への位置付け

「伝統と文化」を大切にせる授業をつくる際、「各教科等の目標を実現することを前提に『伝統と文化』を大切にせる教材・題材を位置付けること」と「各教科等の目標を実現する単元・題材を構成する1時間の授業において、『伝統と文化』の視点を『どこに』位置付け、『どのように』指導・支援するのかということ」が重要であると考えられる。

第3章 「伝統と文化」を大切にする教育実践

第1節 第3学年「道徳」

本市小学校指導計画道徳において、「郷土を愛する心『動くはく物かん(時代祭)』」は10月に行う教材として挙げられているが、A小学校の校区にある上御霊神社の祭礼、時代祭と同じ京都三大祭の葵祭や祇園祭に近い時期に道徳の実践を行うことで、学習の効果を高めることができると考え、7月上旬に実践を行った。本実践終末での「京都や校区は、どのようなところがすてきなのだろう。」について、地域にある相国寺を挙げて、「相国寺がおすすめてです。古くからつかわれているたてものがあるからです。」と表現している子どもがいた。子どもたちは生活経験から「京都にはお寺や自然が数多くあること」は知っているが、更に本実践を通して、「京都のすてきな『世界遺産』」といったように京都や地域のよさを感じ取る子どもの姿や、「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」ことにつながった。

第2節 第3学年「国語科」

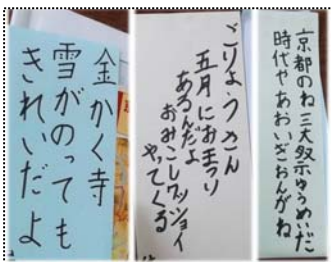


図2 子どもたちが表現した短歌と俳句

本研究では、京都や地域の素材を生かす取組という観点から、11月の「声に出して楽しもう『一茶・百人一首など』」に視点を当てて実践した。図2は、全3時間のまとめとして子どもたちが作った京都に縁のある短歌と俳句の一部である。子どもたちは京都に縁のある短歌・俳句として、世界文化遺産である金閣寺を俳句に、また、A小学校の校区にある上御霊神社で行われている祭礼を短歌に取り入れていた。

第3節 第6学年「社会科」

本市小学校指導計画社会科において、単元「天皇中心の国づくり」は全9時間で実践する。また、本単元「天皇中心の国づくり」の学習では、子どもたちは奈良時代の大陸風の文化と平安時代の文化を比較することで、平安時代に大陸風の文化とは趣の異なった独自の日本風の文化がおこったことを学ぶ。そこで、日本風の文化がおこったころの京都の様子を実際に見に行こうという動機付けのもと、「古典の日記念 京都市平安京創生館」(以下、創生館)の見学学習を単元計画の中に入れ、全10時間で実践することとした。第9時に位置付けた見学学習の効果を右上に示す。

- 平安京復元模型から、自分たちの学校や家が平安京の中に位置していることに気付くことができた。
- 展示されている資料と既習事項を関連付けることで、平安時代の「衣・食・住」について、理解を深めることができた。
- 十二単を着る体験から「実際に着ると重い。」「夏に着ると暑かったらう。」などと実感を伴う感想をもつことができた。

第4節 第6学年「道徳」

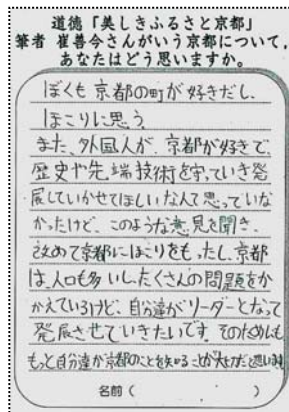


図3 H児のワークシート

本研究では、「京都は、約1200年間、都があった都市であることを知り、京都に住む一員として大切にしていきたいことを考えることを通して、京都を愛そうとする心情を育てる。」という【内容項目4-(7)】を意識した授業構想として、「主題：京都を大切にする『資料：美しきふるさと京都』」での実践に取り組んだ。H児のワークシート(図3)のとおり、本実践を通してH児は「改めて京都にはほこりをもった」「自分達が京都のことを知ることが大切だ」といったおもいをもつことができた。

第4章 地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成のために

第1節 研究の成果と課題

京都や地域の行事に参加しようといったおもいをもつまで至っていない子どもがいたことは事実である。しかし、実践授業の中で子どもたちは「京都には世界文化遺産があるから、自分の子どもにも見せてあげたい」「京都のことをほこりに思う」といった姿を見せていた。京都に対する理解や興味・関心を深めていくことが、「地域や京都の文化に対する理解」や「地域や京都の文化に愛着をもったり、伝えたりする態度」に、そして、「『伝統と文化』を大切にし、地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成」の具現化につながると考える。

第2節 いま、目の前にある素材を生かす

京都市のどの学校においても創生館の見学学習を行えるかという点、授業の進捗状況や学校行事等で難しいことも考えられる。しかし、創生館での学習が行えなくても、目の前にある素材を生かすことで、子どもの学びが充実するのではないかと考える。京都市の地図や京都の世界文化遺産の一覧などを参考にして、目の前にある素材を生かした取組を構想し、単元や題材を通しての指導・支援・評価を行うことが重要であると考えられる。